

# 森林認証材の裾野が広がる

## 森林認証で地域経済の活性化を進める

### 地産地消型ネットワークで存在感

住宅

FSCやSGEC等の認証材を定で、現在は認証材を会)。

新和建設では、現在担当するという連携だ。



「SGEC認証材の検査柱「富士山 檜輝」

全国的に森林認証製品を利用した公共建築物や店舗などの建設が話題になるようになってきた。地域の住宅会社が地元の林家や森林組合との連携で森林認証材を使った住宅づくりをする事例も各地で動き出している。環境価値を消費者に分かりやすく提案できる取り組みとして注目される。そのなかでも市町村主導による出口としての森林認証製品の需要拡大を図っていく動きには、これによって地域経済の活性化にもつなげていくという趣旨も含まれている。

## チャレンジ・チャレンジ・チャンス

変革への挑戦――活力ある産業をめざす

(8)

使った家づくりが徐々に認知度を高めている。環境志向の高まりや長期優良住宅など国産材活用に新たな施設が増える。また、特に流通業者、建築業者にとっては川上から川下までつながった地産地消型のネットワークのなかで存在感を発揮する好機となっているといえよう。

富士山檜輝（ひのき）と名付けて流通象に伐採体験、植林体験ツアなどを積極的に実施して、認証材に循環の重要性をアピールしていく方針だ。

地域木造住宅ビルダ

ー

新和建設（愛知県北名古屋市、吉村良三社長）は、加子母森林組合（同、岩間定組合）（岐阜県中津川市、内木篤志代表理事）と協同組合（同、深沢裕一郎社長）が行い、マルタ（同、フレカット加工場と運搬車）と組合（岐阜県可児市、下田市、倉地貞之社長）が材と乾燥を行って構造躯体化する。そして構造躯体化した東濃桧による家の10%以上（柱・土台）を認証材としてSGEC認証材を使用する。吉村社長は「山元か

らの流通と品質管理の体制をさらに整備する

必要がある」と話し、

認証材の供給量拡

大を促していくとい

て認証材の採用を進

めていく。

吉村社長は「山元か

らの流通と品質管理の

体制をさらに整備する

必要がある」と話し、

認証材の供給量拡

大を促していくとい

て認証材の採用を進

めていく。

吉村社長は「山元か

らの流通と品質管理